



子宮頸がん啓発キャンペーン

「未来への約束」

Promise to your future

vol. 3

富山の女性たちの健康と未来を見つめる



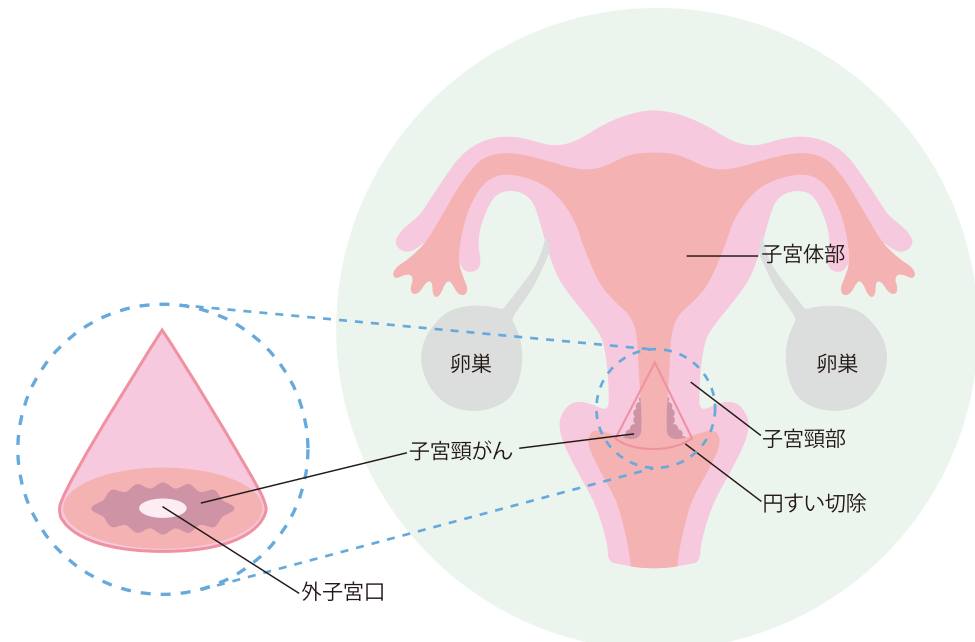
子宮頸がんは原因が明らかな“予防できるがん”。

それでも20代・30代を中心に発症する女性が増えています。

ワクチン接種と定期検診による予防と早期発見が大切ですが、もし子宮頸がんと診断されたら…どんな治療法があるのでしょうか。

早期発見なら子宮は温存

子宮頸がんの治療法には、主に手術、放射線治療、抗がん剤治療（化学療法）があります。細胞がんになる前の状態（異形成）や、がん細胞が子宮頸部の粘膜の表面にとどまっている（上皮内がん）場合、子宮頸部をレーザーで焼いたり、円すい形に取り除く手術（円すい切除）で治療ができ、子宮は温存できます。



治療後の妊娠・出産も可能

円すい切除のための入院は数日です。術後出血など多少はありますが、後遺症の心配はほとんどありません。術後の妊娠・出産も可能です。ただし頸部を一部切り取るので子宮の出口が短くなり、早産リスクが若干高まるといわれています。術後に妊娠した場合は、産科医に報告が必要です。

進行すれば広範な摘出が必要

がんが上皮を超えて浸潤すると子宮を摘出する必要があります。がんが頸部のみにある場合でも、原則子宮やリンパ節を含めた広範な摘出（広汎子宮全摘出）が必要になります。



さまざまな後遺症の悩み

子宮全摘出となれば妊娠・出産の可能性を失い、手術に伴う排尿障害・リンパ浮腫（ふしゅ）や、また放射線照射による膀胱炎・直腸炎など、つらい後遺症と生涯向き合うことになります。退院後も経過を観察し、再発や転移のリスクに備えるため、定期的な検査・通院が必要です。

公的保障＋医療保険で備える

入院・手術となると費用も高額になります。が、公的医療保険には、がんに限らず患者負担額が一定額を超えると、超過分が払い戻される高額療養費制度があります。保障内容は年齢や所得で異なるので、加入している健康保険に問い合わせて内容を確認しておきましょう。公的保障に加えて、健康なうちに医療保険などに入っておくといっそう安心です。



セカンドオピニオンの利用

セカンドオピニオンとは、納得のいく治療法を選ぶため、現在診療を受けている担当医とは別の医療機関の医師に“第2の意見”を求めること。だれに、どのように意見を求めたらよいのか…セカンドオピニオンは、がん医療に関する質問や相談は、県内の8つの国指定がん診療連携拠点病院および2つの県指定がん診療地域連携拠点病院の相談支援センターへ。また医療相談やセカンドオピニオンサービス付きの医療保険も増えています。各分野の専門医から、現在の診断に対する見解や今後の治療方法についてなど意見が聞けるサービスが、保険加入者に無料で提供されています。

富山県のがん相談支援センター

富山県立中央病院 医療相談室 ☎076-424-1531(内線9307,9120)	厚生連高岡病院 がん相談支援室 ☎0766-21-3930(内線2822)
黒部市民病院 がん相談支援センター ☎0765-54-2211(内線1965,1968)	高岡市民病院 がん相談支援センター ☎0766-23-0204(内線2119)
富山労災病院 がん相談支援センター ☎0765-22-1354(直通)	市立砺波総合病院 がん相談支援センター ☎0763-32-3320(代表)
富山市民病院 がん・なんでも相談室 ☎076-422-1112(内線2560)	富山赤十字病院 がん相談支援センター ☎076-433-2222(内線2263)
富山大学付属病院 がん相談支援センター ☎076-434-7725(直通)	済生会高岡病院 がん相談支援センター ☎0766-21-0570(内線1109)

子宮頸がん啓発キャンペーン トークセッション

参加無料

●時間 受付開始13:00 前席13:30～ 終了16:00(予定)

●会場 富山第一ホテル3階 (富山市板木町10-10)

●参加ご希望の方は会場へ直接お越しください。

●13:30 / 講演
「初期の子宮頸がんを経験して」
フリーアナウンサー 山本 舞衣子さん

●14:45 / トークセッション
(座席内科医師、女性クリニックWe富山院長) 種部 恭子さん
(NPO法人女性特有のがんのサポートグループオレンジティ理事長) 河村 裕美さん
(ファイナンシャル・プランナー) 黒田 尚子さん

●お楽しみ抽選会
トークセッション終了後、抽選会を行います。なにが当たるかはお楽しみ!

●参加者プレゼント
●富山第一ホテルの特製スイーツ、ホテル利用10%割引券
●廣賀堂「透白美人enrich」
●資生堂「TSUBAKI」サンプル

●お問合せ先 ☎076-445-3326
北日本新聞社営業局富山営業部 平日9:00～18:00

キャンペーンの内容は専用サイトでもご覧いただけます。

北日本新聞 未来への約束

[URL] <http://woman.kp-kikaku.jp>

北日本新聞ウェブ新聞webunからもアクセスできます。

がんを知って自己防衛を

—経済的な備えは大切ですが—

患者にとって経済的負担は大きな問題です。通院のための交通費、付き添うために家族も仕事を休み、幼い子供を抱えて闘病している人は、通院中の保育料もかかったりします。また最新の薬は高額です。悲しいのは、経済的な理由から治療をあきらめる人がいること。自分を犠牲にしてくる人、自分を何人も見てきました。とても辛いことです。経済的な支えがあれば心の持ちようも変わります。

「出張おしゃべりルーム」が富山で開かれますね。

オレンジティが主催する「おしゃべりルーム」は、婦人科がん体験者と家族、医療従事者など女性だけが参加し、生活や仕事、後遺症の悩み、話しやすい性のことなど語り合える場です。全国各地で開いていますが、富山でも初めて開催し、今後も続けていく予定です。

—富山の女性たちにメッセージを。

子宮頸がんで苦しむ人を増やさないために、予防と早期発見の大切さを知って、検診を受けるなど自己防衛してください。早期発見できれば簡単な手術で治療でき、後遺症もほとんどなく、費用もそれほどかかりません。この事実を多くの女性に伝えたい。検診は自分だけでなく、夫、彼氏、そして子供を救つことになります。子宮頸がん啓発の輪が全国へもつと広がっていくことを心から願っています。

同じ苦しみ味わわないで

自覚症状がなくがん宣告

—子宮頸がんと分かったのはいつですか。そのときの気持ちは—

私が子宮頸がんを告げられたのは1999年7月、32歳のときです。入籍して1週間後、たまたま病院に行ったときに見つかりました。自覚症状は全くありませんでしたが、病状は決して軽いものではなくショックでした。結婚したばかりの夫に迷惑をかけたくないと離婚も考えましたが、がんは治る時代だから!—という夫の言葉が心の支えになりました。

—どのように治療しましたか。

8月に広汎子宮全摘手術を受け、子宮と卵巣、リンパ節を取り、子供を産めなくなりました。手術後、後遺症に苦しむことになりました。外見からは全く分かりませんが、まず排便排尿障害になりました。尿や便をもよおす感覚がなく、自分で時間を決めて排泄します。40代になり失禁という問題も重なり、今後を重なるとうなるのが不安です。今も排泄の感覚はありませんが、長年の経験で多少コントロールできるようになりました。ほかにも更年期障害やリンパ浮腫に悩まされています。

—2002年、静岡県で初めて女性特有のがんの患者会「オレンジティ」を設立されました。

当時は子宮頸がんに関する情報はほとんどなく、私自身苦悩しました。患者たちからこそ分かる悩みや苦しみを分かち合いたいと立ち上げました。そこであらためて健康なときには思いもよらない悩みの多さに気づきました。自分の病気に家族も巻き込んでしまつて、一生続く後遺症のこと、そして経済的不安など患者の悩みはつきません。



NPO法人オレンジティ 理事長
河村 裕美さん

静岡県職員。社会福祉士。結婚1週間後に子宮頸がんを宣告され治療。闘病中の経験から、患者サポートの重要性を認識し、2002年に自助グループ「オレンジティ」を結成。患者サポートに加え、医療の地域格差や女性特有のがんの予防啓発に取り組んでいる。著書「グローバルマザー」が4月25日発売。

主催／北日本新聞社 後援／富山県、富山県教育委員会、富山県医師会、富山県産婦人科医会、富山県商工会議所連合会、富山県商工会議所女性会連合会、NPO法人 女性特有のがんのサポートグループ オレンジティ

協賛社

